



大綱株式会社
DAIKO CORPORATION

環境経営レポート

対象期間 2022年3月21日～2023年3月20日



おりづるタワー（広島市）
Jakob® Webnet



環境経営方針	3
会社概要	4
環境経営組織及び役割・責任・権限	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標およびその実績	6
環境経営計画の取組結果と評価、次年度の計画	
電力・L P ガスによる二酸化炭素削減	7
自動車による二酸化炭素の削減	8
一般廃棄物の削減	8
産業廃棄物の削減	9
水道水の削減	9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに	10
違反, 訴訟の有無	
緊急事態対応の試行・訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11

新宮下公園 Jakob® Webnet





環境経営理念

大綱株式会社は、環境問題が重要かつ長期的な課題と認識し、全員参加で環境に配慮した事業活動に取り組み、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

環境保全への行動指針

1. 全員参加型の環境経営システムを構築・運用し、継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 事業活動における資源・エネルギー（電力・ガス・ガソリン等）の削減に努めます。
4. 事業活動における水の削減に努めます。
5. 廃棄物の排出抑制に努めます。
6. 溶剤など適正管理に努めます。
7. お客様のSDGsに関わる目標達成に貢献する製品・サービスを提供します。
8. 働きやすい環境を整備・実現します。
9. 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。



制定日：2022年7月21日

代表取締役社長 馬場哲人



会社概要

事業所名	本綱株式会社
代表者名	代表取締役社長 馬場哲人
資本金	8000万円
創業	1960年（昭和35）3月

所在地 （認証・登録対象組織）	本社	大阪市港区弁天6-1-5
	東京営業所	東京都中央区日本橋箱崎町5-11
	名古屋営業所	名古屋市中川区高畑2-2
	大阪営業所	大阪市港区弁天6-1-5
	加古川営業所	加古川市野口町水足105-10
	広島営業所	広島市東区光町1-12-10
	九州営業所	北九州市小倉北区赤坂5-393-3

環境管理責任者	総務部長 石川裕	06-6574-2127
環境管理担当者	企画課 松井崇典	06-6574-2122

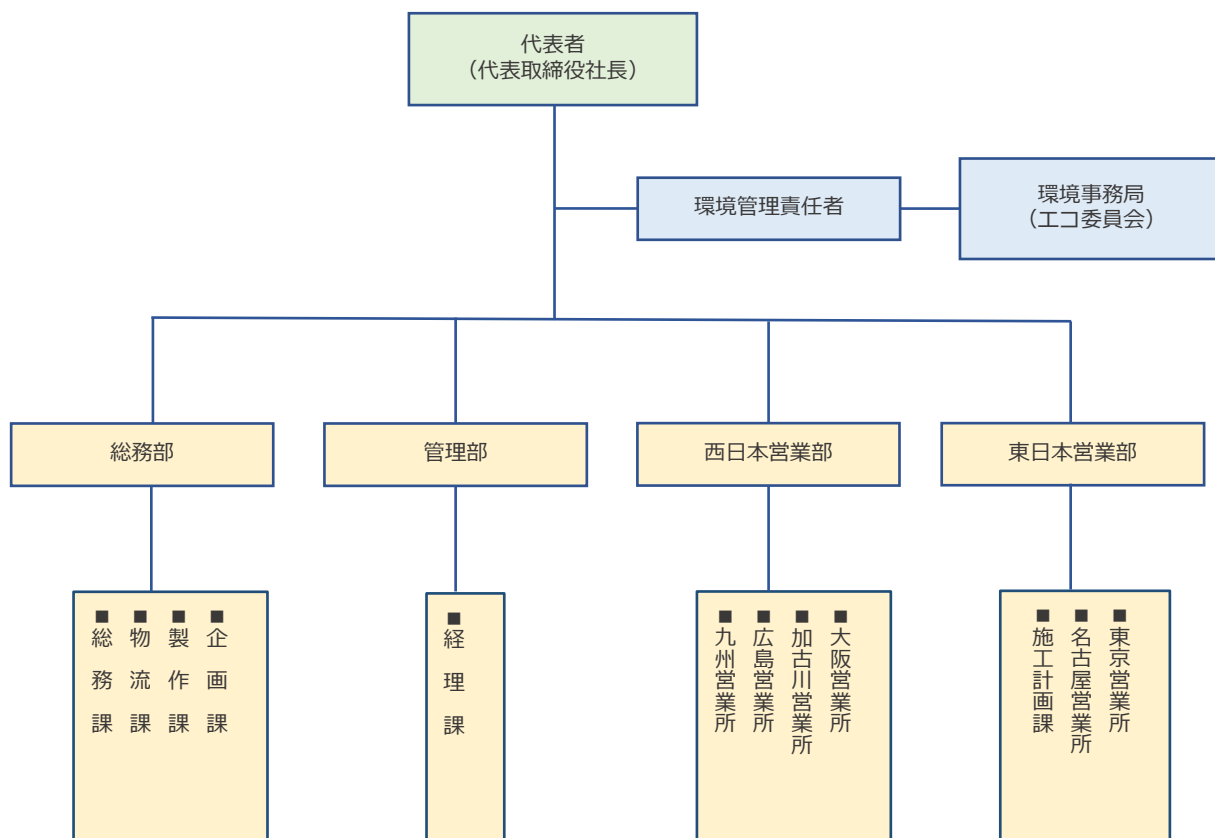
事業活動 （認証・登録対象活動）	ワイヤロープ、繊維ロープ、その他吊り具及び関連製品の加工・販売 建設業	
許可	大阪府知事（般-1）第152416号 ●とび・土工事業 ●機械器具設置工事業	

事業規模	単位	2021年	2022年
売上高	千円	4,028,878	4,629,233
従業員数	名	67	67
延床面積	平米	4,545	4,545

事業年度	2022年3月21日 ～ 2023年3月20日
レポートの対象期間	2022年3月21日 ～ 2023年3月20日



	役割・責任・権限
代 表 者	統括責任、経営資源の準備、環境経営方針の策定・見直し 全体の評価と見直し・指示
部門責任者	環境経営方針の周知・教育・訓練の実施、環境経営目標達成に向けた取り組みの実施、 環境関連法規等遵守の取り組み、問題点の是正と予防
環境管理責任者	環境経営に関する実行責任
環境事務局 (工コ委員会)	環境管理責任者の補佐 各種帳票の作成・データの取りまとめ 環境経営目標の作成 環境関連法規等取りまとめ表の作成と最新版の管理 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境経営レポートの作成・公開 環境経営計画の審議、環境活動実績の確認・評価、緊急事態対応訓練の実施・記録
部門責任者	環境経営方針の周知、社員に対する教育訓練の実施 環境経営目標達成に向けた取り組み実施、環境関連法規等遵守の取り組み 問題点の是正・予防
社 員	環境経営方針の理解、環境への取り組みの重要性の自覚 自主的・積極的な環境活動への参加





主な環境負荷の実績

	単位	2021年（基準年）	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	202,672	194,788
一般廃棄物排出量	kg	20,665	15,599
産業廃棄物排出量	kg	29,900	13,390
水道水使用量	m ³	1,299	1,194



環境経営目標及びその実績

二酸化炭素の削減		単位	2021年 （基準年）	2022年 （目標）	2022年 （実績）
電力 		kg-CO2	104,208	102,124	97,599
		基準年比	—	98%	94%
LPガス 		kg-CO2	4,104	4,022	3,394
		基準年比	—	98%	83%
自動車燃料 		kg-CO2	94,360	92,473	93,794
		基準年比	—	98%	99%
合 計		kg-CO2	202,672	198,619	194,788

廃棄物・水道水の削減		単位	2021年 （基準年）	2022年 （目標）	2022年 （実績）
一般廃棄物 		kg	20,665	20,252	15,599
		基準年比	—	98%	75%
産業廃棄物 		kg	29,900	29,302	13,390
		基準年比	—	98%	45%
水道水 		m ³	1,299	1,286	1,194
		基準年比	—	99%	92%

基準年（2021年） 二酸化炭素排出係数：0.343kg-CO2/kWh

事業所	電力会社	2019年 調整後排出係数	事業所	電力会社	2019年 調整後排出係数
大阪本社	関西電力	0.318	加古川営業所	関西電力	0.318
東京営業所	IPネットワークス	0.468	広島営業所	中国電力	0.585
名古屋営業所	中部電力	0.426	九州営業所	九州電力	0.371

※調整後排出係数：kg-CO2/kWh(全社)=kg-CO2(全社)/kWh(全社)として計算しています。



環境経営計画の取組結果と評価、次年度の計画



電力による二酸化炭素削減

数値目標と実績 (kg-CO2)		
数値目標	実 績	○
102,124	97,577	

取 り 組 み 内 容	
空調温度の管理（冷房28℃ 暖房20℃）	○
空調機フィルター・室外機の点検清掃	○
エレベーター使用の制限	○
設備の電源管理	○
働き方見直しによる残業時間の短縮	△

■取り組みの評価

空調を管理する担当者を決めて、適切な運用をすることができました。エレベーターは1フロア間の移動では使用を控えるよう案内し、各々が意識して取り組んでいます。工場では、設備が稼働していない時にこまめに電源を切るなど節電を心がけています。各事業所とも、基本的に残業はほとんどありませんが、さらに効率のよいオペレーションの構築について、まだ改善の余地があると思います。

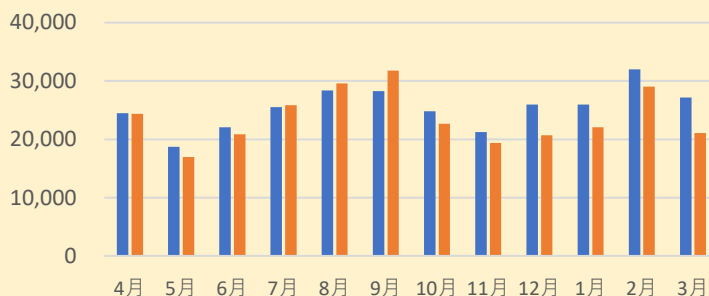
■次年度の計画

老朽化が進んでいる主力設備を、8月に環境配慮型の新型設備に更新予定です。また自社サーバーを12月にクラウド化し、空調による電力消費の削減も期待しています。各人においては、不要な照明の消灯やパソコンの電源管理に取り組み、基準年度比96%を目指します。



全ての操作パネルにラベルを貼って管理しています。

電力使用量 (kWh) ■ 2021年 ■ 2022年



LPガスによる二酸化炭素削減

数値目標と実績 (kg-CO2)		
数値目標	実 績	○
4,022	3,394	

取 り 組 み 内 容	
LPガスを使用しない生産技術への移行	○
機器の定期的なメンテナンス	○

■取り組みの評価

LPガスを使用せずに加工できる新たな設備を導入し、製品規格と作業手順書を整備しました。お客様とコミュニケーションを重ねながら供給を開始し、順調に移行が進んで数値目標を大幅に達成することができました。またLPガスの溶鉱炉を高効率型に更新したことも、LPガス使用量の削減に大きく寄与しました。

■次年度の計画

引き続き、今期導入した環境に配慮した加工をお客様にPRし、移行を進めます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月次評価	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
累計評価	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○



環境経営計画の取組結果と評価、次年度の計画



自動車燃料による二酸化炭素削減

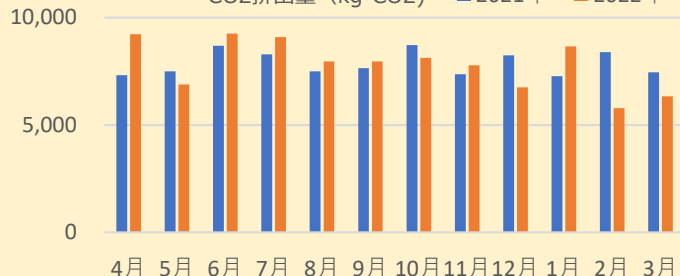
数値目標と実績 (kg-CO2)

数値目標	実績	
92,473	93,794	×

取 り 組 み 内 容

エコドライブの浸透	○
効率的なルートでの配送	○
エリア別営業活動の見直し	△

CO2排出量 (kg-CO2) ■ 2021年 ■ 2022年



■ 取り組みの評価

コロナ禍で自粛していた営業活動が徐々に再開され地方への出張が増えたことなどから、実績は数値目標に1%及びませんでした。しかし、エコドライブの心がけや、カーシェアリングの活用、都市部への営業活動を公共交通機関に切り替えるなど、CO2削減の意識は着実に浸透してきています。配送は曜日ごとにエリアを決めることで、効率が上がりました。

● ガソリン使用量

2021年(基準年度) 19,844L
2022年 19,844L

● 軽油使用量

2021年(基準年度) 18,729L
2022年 18,510L

■ 次年度の計画

更新を迎える1台の営業車両をハイブリッド車に入れ替える予定です。またタイヤの空気圧など車両状態を管理し燃費の向上を目指します。改善余地のあるエリア別営業活動は見直しを進め、次年度は基準年度比96%を目標とします。



一般廃棄物の削減

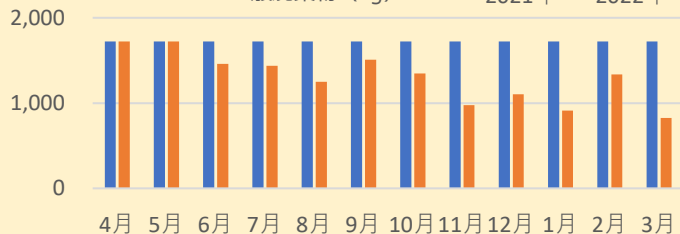
数値目標と実績 (kg)

数値目標	実績	
20,252	15,599	○

取 り 組 み 内 容

分別の徹底	○
帳票見直しにより印刷物の削減	×
使い捨て製品の使用、購入の抑制	○
両面コピー、集約印刷の徹底	△
マイカップ、マイ水筒運動の実施	○

一般廃棄物 (kg) ■ 2021年 ■ 2022年



■ 取り組みの評価

まず社内で廃棄物について勉強し、分別の徹底から始めました。紙コップとペーパータオルは新たな購入を控え、マイカップ・マイ箸の使用を推進しています。印刷物はできるところからデジタルデータで保存するようにし、お客様へもFAXの使用を控えEメールへの変更にご協力いただき、印刷物の削減につながりました。両面コピー・集約印刷の取り組みは、意識の浸透がすすんできていますが、事業所によって差がありまだ改善の余地があります。帳票類の見直しは基幹システムをアップデートする必要があり、次年度への課題となりました。

● 一般廃棄物の廃棄量

2021年(基準年度) 14,484kg
2022年 12,256kg

■ 次年度の計画

引き続き分別の徹底と印刷物の削減に取り組むとともに、機密文書の処理方法を見直します。また旅費交通費の精算を電子化を予定しています。



環境経営計画の取組結果と評価、次年度の計画



産業廃棄物（混合廃棄物）の削減

数値目標と実績（kg-CO2）

数値目標	実 績	
29,302	13,390	○

取 り 組 み 内 容

作業ミスによる廃棄量の削減	○
適切なりサイクル業者の選定	○

■ 取り組みの評価

分別のルールを定めたことで、従来は廃棄物として処分していたものが再資源化に回るようになり、数値目標を大幅に達成することができました。また、品質委員会による不適合のデータ管理と再発防止策の評価が、廃棄ロスの削減につながりました。

■ 次年度の計画

今年度の取り組みを続けるとともに、仕入れ業者様に簡易梱包のご協力をとりつけ、さらに廃棄量の削減を目指します。



廃材は引き取ってもらえるサイズに解体して保管



段ボール製のゴミ箱で分別



水道水の削減

数値目標と実績（kg）

数値目標	実 績	
1,299	1,194	○

取 り 組 み 内 容

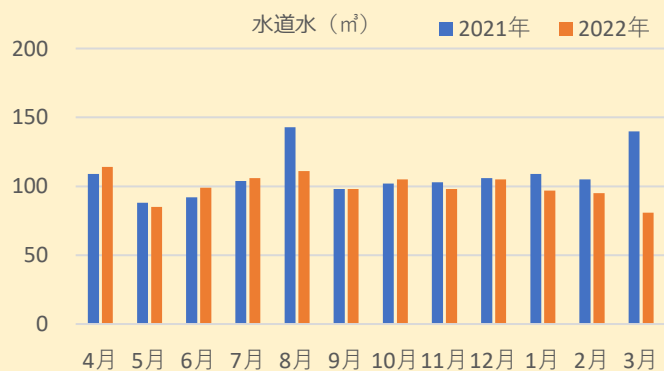
節水の呼びかけ表示	○
-----------	---

■ 取り組みの評価

水を使用する生産設備はなく、大きな削減は見込めませんが、節水の呼びかけ表示や製造現場の蛇口の取り換えなどを行い、各人が意識をして行動した結果、基準年度比92%で目標を達成することができました。

■ 次年度の計画

作業着を洗う洗濯機の使用に関して、効率良く運用する仕組みを考え、節水を励行します。



節水の呼びかけ表示



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反、訴訟の有無

	摘要される事項（施設・物質・事業活動）	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出	遵守
騒音規制法	液圧プレス	遵守
振動規制法	液圧プレス	遵守
フロン排出抑制法	業務用空調機の設置	遵守
自動車NOx・PM法	対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	遵守

当社に関係する上記の環境関連法規制等の遵守状況を評価した結果、すべて遵守されていました。
なお、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟は過去3年間ありません。



緊急事態対応の試行・訓練

実施日	実施場所	訓練内容	参加人数
2022年10月14日	大阪本社	水消火器を使用した消火訓練	23名
2022年10月21日	加古川営業所	水消火器を使用した消火訓練	11名
2022年10月31日	九州営業所	水消火器を使用した消火訓練	10名



大阪本社の訓練の様子



加古川営業所の訓練の様子

2022 年 11 月 1 日	
小倉北 消防署長 様	
☐ (統括) 防火管理者 ☐ (統括) 防災管理者 以上記以外の訓練責任者	
☐ 自衛消防訓練計画通知書 ＊計画通知書又は結果報告書のどちらかを添付してください。 ☒ 自衛消防訓練結果報告書	
実施日時	2022年10月31日(月曜) 13時00分～13時30分
事業所名	大鋼株式会社 九州営業所
所在地	小倉北 区 赤坂 5-39-3
参加人員	10 人 担当者 柴山 彩子 TEL (093-522-6400)
訓練規模	☒ 建物全体 ☐ フロント・建物の一部(フロア名又は種名)
種 別	☐ 総合訓練 (消火・通報・避難訓練の3つを連携して行う訓練) ☒ 部分訓練 (☒ 消火訓練 ☐ 通報訓練 ☐ 避難訓練) ☐ 防災管理に係る訓練 ☐ 地震災害等に係る避難訓練
訓 練 概 要	
【訓練想定】★計画通知書を提出する際に記入してください。 ・建物階数(3)階建て・出火(被害)階(1)階・出火(被害)場所(工場内作業場) ・逃げ遅れ(0)名・負傷者(0)名との想定。	
【訓練想定自由記入欄】 ()	
【訓練自己評価欄】★結果報告書を提出する際に記入してください。 ・消火訓練 ☒ 良好 ☐ 要改善 全員の適切な操作、連携及び迅速性はどうか？ ・通報訓練 ☒ 良好 ☐ 要改善 全員の迅速な通報、消火・防災状況等の伝達はどうだったか？ ・避難訓練 ☒ 良好 ☐ 要改善 全員の適切な避難行動、避難経路等の伝達はどうだったか？ ・防災訓練 ☒ 良好 ☐ 要改善 全員の適切な避難行動、避難経路等の伝達はどうだったか？ 【評価自由記入欄】 ()	
【※その他特記事項：事業所と消防機関との打ち合わせ内容等】 ()	
※受付欄	備考
	1 ※印欄は、記入しないでください。 2 □印には、該当する□にレ点(・)を付けてください。 3 自衛消防訓練計画通知書は、消防訓練実施前に提出してください。 4 自衛消防訓練結果報告書は、消防訓練実施後に提出してください。 5 提出については、所在地の所轄消防署に2部提出してください。 6 消防職員の新着及び訓練用資機材(水消火器)の貸出しを希望される場合は、事前に所轄消防署へ連絡して日程調整をしてください。

自衛消防訓練報告書(九州営業所)



代表者による全体の評価と見直し・指示

評価の対象期間	2022年3月21日～2023年3月20日
評価実施日	2023年5月25日
全体の評価	当社は、2022年度より「環境経営方針」を掲げ、「環境保全への行動指針」を定めて取り組んでまいりました。 活動初年度の状況としましては、特に廃棄物の削減について、分別の徹底と処理方法を具体的に策定し積極的な行動に移せたことで、数値目標に対して大幅な削減を達成することが出来ました。 二酸化炭素の削減については、新型コロナウイルスの感染が落ち着きはじめ、事業活動を通常に戻す過程で、前年は自粛していた自動車による営業活動を再開させたことから、自動車燃料による二酸化炭素の削減は目標に届きませんでした。一方で作業工程の見直しから、LPガスを使用しない加工設備を導入したことで、LPガスによる二酸化炭素の排出量を大きく削減できた結果、全体として数値目標を達成することが出来ました。
見直し・指示	省エネルギー型車両の導入 低燃費車中心のカーシェアリングの有効活用 メーカーや資材供給業者と協力した簡易梱包材の開発 省エネルギー型加工設備の導入（ワイヤローブ端末プレス機） 環境負荷を抑制する製品（高強度化・軽量化・長寿命化）の開発
環境経営方針	☒ 変更なし ☐ 変更有
環境経営目標・計画	☒ 変更なし ☐ 変更有
実施体制	☒ 変更なし ☐ 変更有

発行日：2023年6月2日